平成２６年１０月３０日

当別町長　宮司　正毅　様

当別町道の駅基本計画検討委員会
委員長　吉成　賢二

当別町道の駅基本計画の検討について（答申）

平成２６年６月２４日付け当プ道第７号により本委員会に諮問のあったこのことについて、下記のとおり答申します。

記

答申概要
詳細は別紙「当別町道の駅基本計画検討委員会答申書」のとおり。

１　道の駅の施設機能

⑴　道の駅の基本コンセプト

当別町の基幹産業である農業を軸に、当別町が抱える課題解決に向け、『人を呼び込む施設』を念頭に置き、経済活動を活発化させ、当別の将来を変える起爆剤となるべく、下記に留意しながら道の駅の整備を進めること。

・　当別町に人を呼び込み、周遊させ、交流人口の増加による経済活動が活発化する起点となること。
・　道の駅の知名度を利用し、当別町の情報を的確に発信し、当別町の認知度を上げること。
・　交流人口の増加により、特に若い世代による産業の活性化や雇用の創出につなげ、多くの人がまちを周遊する好循環を作り出すこと。
・　地域の拠点となり、農産物や特産品の販売など買い物の便の向上や、防災拠点としての機能を持たせ、住民の利便性を高める施設であること。

⑵　外部のニーズに合致した施設機能の調査・検討

・　道の駅の主な利用者となるターゲット層として、４０代及び６０代の女性を想定。
・　平日は女性同士、休日は家族連れと利用形態が変わるため、出店方法・配置・演出等で双方の利用形態に対応できる工夫が必要。

・　将来的なターゲットとして外国人観光客も想定すること。

⑶　「食」の機能（飲食の提供）

・　札幌を含め近郊には競合施設が多いことから、当別独自の魅力をもって差別化を図り、ターゲット層に合わせた施設・サービスを提供すること。
・　飲食の提供は、レストラン又はフードコートのほか、短時間で購入でき、持ち帰りができるテイクアウト施設を想定すること。
・　町内の経済の活発化に向けた起業の足がかりとして、町内企業のチャレンジショップの設置も有効。

⑷　「買」の機能（特産品販売）

・　農産物の直売は「当別＝安心安全」という消費者のイメージづくりに向けて、品質確保のルールをつくり、品質を重視した適正価格での販売を目指すこと。
・　これらを実現するため、早期に農家を中心とした運営主体の立ち上げに向けた協議を進め、販売・供給体制や販売方法について検討すること。
・　特産品販売については、地元産品の販売を基本としながら、周辺市町村・姉妹都市の産品の販売も必要。

⑸　「知」の機能（情報発信）

・　整備の目的である『人を呼び込む施設』として道の駅への集客につなげることと、道の駅を起点として町内施設への周遊につなげることが重要。
・　来訪者が望むまちの情報を適切に案内するコンシェルジュを配置し、道の駅を起点として町内の施設や商店との連携により周遊させ、リピーターを獲得する工夫が必要。
・　観光情報の発信にあたっては、観光資源の発掘、担い手の育成が必要で、商工会、観光協会との連携のもと、新たな体制整備も踏まえて検討すること。

⑹　「休」の機能（休憩機能）

・　ターゲット層の利用を考えると、平日はゆっくり落ち着くことができ、休日は、家族で気軽に利用しやすい機能・空間を検討すること。
・　農村地域の立地を活用し、景観を楽しめる空間とし、子どもなどが楽しみながら、家族が安心して休憩できる機能とすること。

⑺　＋αの機能

・　多くの人を呼び込むため、道の駅にイベントスペースを併設すること。
・　非常用発電機や備蓄倉庫等の設置など防災拠点としての機能を付与すること。

・　２４時間営業の店舗や防犯カメラの設置など、防犯対策を講じること。
・　再生可能エネルギーの積極的な導入を検討すること。

２　道の駅の管理運営方法

道の駅には、道の駅単体の収益と言った効果のみならず、当別町全体の経済効果を高める目的があることを十分考慮し、管理運営のあり方を検討した。

・　道の駅の建設に向けて、行政・ JA ・商工会・観光協会など関係機関が一体となった取り組み体制を構築すること。
・　運営や連携にあたっては、これからを担う青年世代の積極的な関わりが重要。
・　管理主体には、町のＰＲの公的機能と特産品販売等の収益施設を有することから、経営的な視点を持った人員とまちづくりを行える人員が必要。
・　今後の各団体との協議や調整、開業準備に要する期間を十分考慮の上、最適な開業時期の設定となるよう、検討すること。